

きら  
煌びやかな  
都会で味わった

「♪は、じ、めての～、お酒！」

女優・タレント 小野真弓

デビューしておよそ3年後に「は、じ、めての、アコム」のフレーズで消費者金融の「アコム」のCMに出演させていただき、皆さんに知られるようになった私ですが、お酒を知ったのはその前年の20歳の時でした。

それまでお酒を一滴も口にすることがなかったこと

で好奇心が湧いたのです

が、千葉の家から通って

いたことで、仕事が終

わると真つすぐ帰るた

め、なかなか味わう機

会が訪れませんでし

た。一緒に活動していた

子たちはほとんどが東京

在住で、お酒を飲みながらワイ

ワイ騒いだという話をよく聞かされ、

早く私も参加したいと思っていました。

やがてその思いが実を結び、飲み连接到

行ってもらったことができたが、とはいえ、

お酒は未知の世界で、自分ではお酒に弱いだろ

うと思ひ込んでいました。

最初に飲んだのは「カシスウーロン」でした。

恐る恐る口をつけましたが、とても飲みやす

く、お酒デビューの日からかなり飲んだと思

います。連れて行ってくれた人たちから「もしか

したら強いんじゃないの？」と言われたことを

覚えています。周りの人たちはかなり酔ってい

るようでしたが、私は意外にしっかりとしてい

て、その時、「私って強いんだ」と思いました。

カシスウーロン。これが、私にとつての「♪は、

じ、めての～、お酒」でした。

その頃、『サンデージャポン』（TBS）の前

身番組だった「大好き！東京ゲスト10」

（2000年4月～01年9月）という番組で

6～7人の女性リポーターのひとりとして登

場していました。よく飲んでいたのはそのリ

ポーター仲間で、少しお姉さんが多かったか

な。東京在住の彼女たちは面白い場所や店を

たくさん知っていて、好奇心旺盛な私はひよこ

ひよこついていくようになりました。

六本木などの繁華街は私にとつては煌びや

かな街で、オシャレなバーなどに「大人だあ

～」って思っ

てはしゃいで

いました。も

ちろんお酒の

味などわからず、

東京の大人の街に

いる私、オシャレな私に浸っているミスター

でした。（笑）

都会に慣れるようになると、カシスウーロン

ばかりではなく、周りの人が飲むものに興味

が湧くようになり、いろんなお酒を飲むよう

になりましたが、それでもお酒は盛り上がるた





dTVチャンネル「大久保酒場」より

## 酒席で学ぶ演技論

アコムのCMが流されて半年ほど経つと、「あのCMの娘は誰だ」とじわじわと注目されるようになりました。いろんなところで声をかけられるようになり、仕事も名指しで指名されるようになりました。急に忙しくなったことから、お酒を飲む機会は激減。朝早い仕事も多くなり、ほとんどお酒を飲まなくなりました。仕事の内容もお芝居などが増え、ついでいくのがやっとでした。お酒を飲みながらワイワイ騒ぐ余裕などありません。お酒を飲んで気を抜いてしまうと、覚えたお芝居の台詞を忘れちゃうような気がしたし、まだまだ新人なのでダメ出しされることも多かったから、お酒を飲むとは思えなかったのです。もっとも、

### 【プロフィール】

おの・まゆみ…1981年3月12日生まれ、千葉県出身。O型。趣味は読書、映画、舞台鑑賞、ガーデニング、旅行、ドライブ。最新写真集「赤い花」(講談社刊)・テレビ出演は、『ラフ・ラブ』(フジテレビ・毎週土曜日15時半頃)・『熱血BO・SOTV』(チバテレビ・毎週土曜日18:05〜18:55)

夜帰宅して、芝居の予習復習をすればもう眠る時間しかありませんでした。20歳代前半から後半にかけてはこんな感じで、お酒とは距離を置いていた感じです。えっ、芝居に熱心? いえいえ、ただキヤパシティが狭いだけです(笑)。

環境にも仕事にも慣れてきたのはそれから2年ほど経ってから。でもお酒に関してはまだにワイワイ派で、飲み会に行くこと学ぶことが多いということに気が付き始めたのはその後しばらくして。

お芝居の関係者と飲むようになると、稽古場とは違う先輩のアドバイスを聞くことができることがわかってきたのです。

「あの場面ではこういう表情をしたほうが絶対いい」とか、「こう動いたほうが面白く見えるよ、私だったらそうする」とか、稽古場で言えばきつめのダメ出しも、酒席では貴重なアドバイスです。その言葉によってヒラメキや演技のヒントが掴めるのです。ときには違う解釈をしていたこともわかったり、ダメ出しの細かい部分まで理解でき、修正できたりします。また、私も「こうやりたい」と意見を言えたりもできます。さらに、人間関係の距離も縮まり、お芝居もやりやすくなります。演技論を戦わせることもありですが、それも人間味があつて面白い。心の中のモヤモヤを抱えながらお芝居するよりは、お酒の力を借りて一度ぶつかり合ってお芝居したほうが絶対面白いものが生まれると思います。

最終的にお芝居の良し悪しを審査してく

ださるのはお客さんで、演技がうまくできなくて恥をかくのは自分。だから耳の痛いことを言われて鬱陶しいと思っても聞かなければ演技者として損をしていると思うようになりました。

それでも、酔って同じことを何度も繰り返すオッサンもいて困ることがあります。2回目までは黙って聞きますが、3回目となるとね……。『その話3回目!』ってツツ込める方ならしいですが、冗談の通じない人には、トイレに行くフリをしてさっさと席を移動しちゃいます。

### 焼鳥屋での俄か誕生日パーティー

今ではお酒の味も少しはわかるようになって、ワイワイ派から食事に合わせるお酒を愉しむようになりました。

今、一番好きなお酒はワインと日本酒。醸造酒の味と香りが好き。それに続くのがビール。焼酎やウイスキーの蒸留酒はものによっては、味にカドがあるように思えてちょっと苦手です。日本酒やワインのほうが円やかさを感じるんです。

20歳代後半からは1人で飲むようにもなりました。いま住んでいる部屋の前が酒屋さんで、仲良くなった店のおばちゃんとかちやくちゃ話しながら、ワインを買って1人で家飲み。翌朝早くなければ、家飲みしていることも多い。近所の焼鳥屋さんへも1人でいきます。

昨年の誕生日はその焼鳥屋さんに行きました。寂しい女って思われちゃうかもしれませんが、かけつけてそうではなく、ただ自分の誕生日を

ほとんど意識しない性格なだけ。その日は、もともと忙しい時期で、ドラマの収録が終わる時刻が見えず予定を入れなかったんですが、7時くらいに終わったので焼鳥屋さんへ行ったのです。ただ、店では誕生日であることを忘れていて、ヤキトリを食べながらケータイをみると大量の「おめでとうメール」。そこで誕生日を思い出しました。

焼鳥屋さんのご主人夫婦と話している流れで、「今日、誕生日なんですよね」って何気なく口にする、「誕生日なのに1人で飲んでるの?」ってイジられながら、たまたまもらったというケーキを絶妙なタイミングで出されました。極めつけは、居合わせた近所の酔っぱらったおばさんが歌ってくれた即興オペラ調の「ハッピーバースデー、トゥーユー」でした。

お酒は人とのコミュニケーションを潤滑にしてくれる重要なツールです。もし新しい彼ができるとするならば、やっぱりお酒に理解ある人がいいですね。



dTVチャンネル「大久保酒場」より